「ウィルの秘宝」あらすじ

三姉妹は悪の力との戦いを終決させ、ウィルの秘宝に取り憑かれた父親を助け出します。この作品は「魔法の鞭」、「バベルの塔」、「天国の墓」の三作品からなっています。読者はこの三部作の舞台である大地や家族から、今この人生がどれほど大事で貴重なものであるか学ぶことになるでしょう。悪の力はもちろん人々の破壊行為のことを暗示しています。ユリービィはかけがえのない人々を失ってしまいます。

物語は五月のある美しい朝、イスマエリオンの湖のほとりで始まります。ユリービィはまだ朝食を食べていません。彼女は姉妹から自然の大切さを学びました。そして自然は彼女を守るために働きかけていることも学びました。

ドックリーヌ叔父はある日ユリービィを彼の研究室に連れて行きます。そこで彼女は時間の中を自由に旅行する実験を行います。こうしてエレベニーア女王はウィルの一族の存在を知ることになります。女王は時間の中を行き来することですでにユリービィのことを知っており、彼女が何を探しに来たのかもわかっています。

不幸なことに、ウィルの一族は秘宝を追い求める人々の争いを目にすることになります。はじめ人々はかつて女王の所持品であり、今はユリービィのものとなった魔法の鞭のせいであると考えます。しかし、のちに父であるイリコンが秘宝を隠したためだということに気づきます。

「バベルの塔」では、ユリービィは息子タナトスの存在を知ることになります。ユリービィは息子を両親であるイリコンとジャスペラから守らなければなりません。今や両親は悪の力に身を捧げてしまったのです。罠には気をつけなければなりません。イリコンは鳥に変身することができます。ウィルの秘宝を手に入れるために娘に近づいてきます。

「天国の墓」では、ユリービィは旅の目的を遂げ、世界を覆い尽くす悪の力と対峙することになります。しかし彼女に残された時間は多くはありません。仲間を信じ悪の力を打ち砕かなくてはなりません。